

柴原瑛菜がITF大会で初優勝 日本代表として有明でプレー



1



2

写真/鯉沼宜之

1 シングルスで予選を突破して上位進出するようになっていた柴原が、とうとう頂点に立った

2 カザフスタン戦の日本代表メンバー。左から大坂なおみ、柴原瑛菜、杉山愛監督、本玉真唯、青山修子、日比野菜緒

3 柴原は青山修子と組んでダブルスに出場。接戦で敗れるも、有明のファンに魅力的なプレーを披露した



3

写真/鯉沼宜之

所属選手の柴原瑛菜が2月26日から3月3日にわたって、アメリカ・テキサス州で開催されたITFテニスワールドツアーW35でシングルス初優勝を果たした。ダブルスではWTAツアーも含めて18のタイトルを持つ柴原だが、シングルスでは初めてのタイトルとなった。

「この度、無事に初めてのシングルスタイトルを獲得できました！ 去年の冬から本格的にシングルスにチャレンジし始め、やっと優勝と言うステージに立てました。まずは今年中に150位以内、全米オープンにはランキングも250位ほどまで上げて予選に間に合うように頑張ります。オリンピックも控えていますので、気を抜かずに全力前進して参ります」と、柴原は喜びと同時に、今後の目標を明確にした。現在のWTAランキングは353位。4月15日付けのランキングで

は349位とキャリアハイを更新し、順調にステップアップしている。

また、柴原は4月12日、13日に東京・有明コロシアムで行われた、女子テニス国別対抗戦「ビリー・ジーン・キング・カップ」のファイナル予選、日本対カザフスタン戦の日本代表メンバーに選出された。

日本がシングルスで3勝を挙げて勝利を確定させた後、ダブルスの試合を実施。柴原は青山修子と組んで有明のコートに立った。残念ながら6-7(9)、6-3、9-11でカザフスタンのペアに敗れたが、有明に集まった観客はツアートップレベルのダブルスを満喫した。日本は今回の勝利により、11月に開催される「ビリー・ジーン・キング・カップ ファイナルズ」の出場権を獲得している。

北原結乃プロ転向記念インタビュー

——高校3年生でプロになる決心をした理由は？

北原 16歳の時に全国大会決勝に行けたことで、自分も戦っていけると考えたことが切っ掛けです。翌年に一般のITF大会に出場して、高いレベルで試合がしたいと思いました。進路は、プロ、日本とアメリカの大学で悩みました。色々な方に相談もして、結局は原点に戻り、プロになってもっと試合をしたい気持ちが強かったので、高校卒業前ですがプロに転向することを決めました。私は人に恵まれていて、(吉田)友佳さんの元で練習できて、今回は橋本総業HD様とも契約させていただきました。親も「自分が今したいことを最大限やればいい。全力でサポートする」と言ってくれました。

——橋本総業HDとのかわり前は以前からですか？

北原 台湾やタイでテニスをするイベントが年に1度ぐらいあり、中学生ぐらいから行かせていただいていた。今年の日本リーグの試合にも行きました。(坂詰) 姫野さんがエースで、緊張した場面でしっかりと勝ち切る先輩たちの姿を見て、自分も将来はエースで輝けるくらいになりたいと思います。

——今年はどういうプランを考えていますか？

北原 日本のITF1.5万ドルの大会に出場しながら、フィジカルを鍛えていきます。秋の全日本選手権が終わったあたりから、少しずつ海外の大会を回る話をしています。コーチは引き続き友佳さんをお願いしていますが、基本は1人が同年代の選手と遠征することになるかと考えています。



橋本総業HD 総監督吉田友佳さん(右)の秘蔵っ子、北原結乃(左)が17歳でプロ転向を決意した

PROFILE

北原 結乃 Yumo Kitahara

2006年7月11日香川県生まれ。4歳でテニスを始め、小学2年の時に親の転勤で関東に引越し、TEAM YUKAで腕を磨く。16歳以下全日本ジュニア準優勝。高校2年から一般のITF大会に積極的に出場している。2024年5月1日にプロ転向。橋本総業HD所属。

——武器を教えてください。

北原 私は小柄ですが、ステップやタイミングの早さは得意な部分なので、相手の時間を奪っていくスタイルが基盤としてあります。あと、ストロークの精度には自信があり、基本的には攻撃的です。今はネットプレーや色々なショットを使い分けられるようになる練習をしています。

——今年と将来の目標は？

北原 今年はまずランキング700位台に行くこと。自分の中で良いスタートが切れることを目指しています。将来的には、オリンピックに憧れがあるので、4年後のロサンゼルス五輪に出場することです。

台湾アカデミーで合宿 自分の課題が明確になった

4月13日から17日にわたり、台湾の「Rendy International Tennis Academy 台南」でプロとジュニアが合宿を行った。ここは元ATP33位の盧彦勳(ルー・イェンスン)のアカデミーで、参加した選手たちはルーからトップレベルの指導を受けることができた。

参加した北原は「私の癖や特徴などを的確にアドバイスして頂き、新しい視点から自分のことを分析できました」と学びがあった様子。ジュニアの上村は「世界で活躍したトッ

プ選手でも、基本的な事を意識しているんだと驚き、それをより高い精度、レベルでできるようにならないといけない」と認識を新たに。また奥脇は、あまりないレッドクレードで練習できたことで、「トルコ前にクレードコートで練習することができ、とてもよい経験になりました」と、遠征に向けた準備となった。

どの選手も世界を経験してきたプロからのアドバイスを受け、自分のプレーを見直し、改善する方向性を明確にできるよい機会となったようだ。



元33位のルーから直接アドバイスをもらった



フィジカルトレーニングも含まれておりハードな合宿となった



(参加選手) 奥脇莉音(橋本総業)、北原結乃(Team Yuka)、上村睦実(愛知県代表)、駒田唯衣(愛知県代表)、水口由真(沖縄商学高等学校)、宇都宮早絵(沖縄商学高等学校)



海外での移動や違う通貨を使うことも経験した

サポート選手が大会で奮闘!

環境が整い感謝

「ダイキンオーキッドレディス」(2月29日～3月3日/琉球ゴルフ倶楽部)に出場した荒川怜郁と吉崎マーナからコメントが届いたので紹介しよう

荒川 怜郁 Reika Arakawa

開幕戦で9位タイ

私の大会出場に関する立場は、クオリファイトーナメントでの成績が良くなかったため、前半戦のツアー競技には、推薦をいただくか、マンドレートーナメント等に推薦をいただいて本戦出場を目指すこと。1試合でも多くの大会で成績を残して、6月末までの結果で行われるリランキングで順位を上げて、後半戦の試合に出場できるようにするしかありません。そういった状況と、大学の卒業を控えた中で迎えた、2024年開幕戦『ダイキンオーキッドレディス』でした。

目の前の試合に必死になるような感じではなく、シーズンを通して試合に出られるように、1試合に集中していけるようになったと思います。試合中も、大学卒業のために課題を行う必要がありましたが、逆にリラックスして良い準備ができました。

3日目にオーバーパーで順位を少し落としましたが、最終日に60台でラウンドすることができ、9位タイで試合を終えることができました。オフに行った走り込みで体力が付いたおかげだと感じました。最初の試合でかなり良いスタートが切れたので、今後も良い結果につながるプレーを続けたいと思います。



吉崎 マーナ Yoshizaki Mana

ベストアマチュア賞!

『第37回ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント』にてローアマチュア(ベストアマチュア賞)を獲得することができました! 沖縄カトリック高校1年吉崎マーナです。

中学1年生から、みらい会ゴルフ事業部のジュニアメンバーとしてご支援をいただき、ついにこの目標を達成することができました。このような成果を上げられたのも、橋本会長、服部道子プロより頂いた『データゴルフ』という課題に取り組んできたこと、事業部の皆様より、貴重な練習の機会をいただけているからこそです。この場をお借りして、感謝の気持ちをお伝えできればと思います。本当にありがとうございます。

沖縄県を活動の拠点とし、沖縄県出身のジュニア選手で構成される、みらいゴルフ事業部は、中々皆様のお目にかかることはできないのですが、合宿やみらいカップの開催、橋本総業所属のプロの先輩方との練習会を設けていただいたりと精力的に活動しています。これからも良い報告をお届けできるよう頑張ります。また、プロテストに向けしっかりと準備を進めていきます。今後とも応援よろしくお願いたします。



小西瑞穂が優勝争いに加わり ベストルーキー賞を獲得

BEST
ROOKIE
AWARD

25歳のルーキー、小西瑞穂が『KKT杯バンテリンレディス』(4月12日～4月14日/熊本空港カントリークラブ)に出場。第2日には3位にまで順位を上げて優勝争いに加わった。最終的には15位タイとなったものの、直近2年の新人の中で一番成績の良い選手に与えられる「ベストルーキー賞」を獲得した。プロ1年目となる今年は、移動の手配もすべて自分1人でこなすなど、新しく経験することも多い。そんな中でどれだけ結果を出していけるのか注目したい。



Photo:WATANABE Shin

働くスキーヤー **ASAMI**のコラム



オフシーズンは橋本総業 HD 社員として働く片桐麻海が、スキーの魅力を楽しく、わかりやすく伝えます！

今シーズンの振り返り

こんにちは。橋本総業ホールディングス株式会社所属、アルペンスキーヤーの片桐麻海です。3月で2023-2024シーズンが無事に終了いたしました。今シーズンは社会人になり、初めて会社の名前を背負い、いつもより沢山の期待感と責任感をもって競技活動に取り組みました。

シーズン中は七転び八起きで学びの多いシーズンであったと感じております。特に、夏期間から腰のヘルニアを患ってしまい、完治しないままシーズンを迎えてしまったことは、痛みが抜けない不安とトレーニングができないもどかしさがありました。

その後の海外遠征期間中も痛みが引くことはなく、このまま力が入らない状況で競

技ができるのかと考えましたが、時間の経過とともに痛みがなくなっていったことは不幸中の幸いだったと感じております。

今シーズンは、FIS ランキング（世界ランキング）100位以内に入ること、FECで総合または種目別チャンピオンになることを目指して取り組んでまいりました。実際のところは目標を達成することができず、シーズンが終わった今でも悔しさと焦りがあります。中でもFECは参加予定の14戦（中国4戦、韓国6戦、日本4戦）のうち3戦が中止となり、得意種目の半分が試合中止になったことで、本来の力を発揮することのできない悔しさと、用意された環境の中で戦い抜けない不甲斐なさが目立った期間でした。しかし、シーズン後半にはFIS ランキングをGSは150位、SLは200位上げることができ、目標としているものが現実的な数字として見えてきた場面もありました。

2023-2024シーズンの経験を踏まえ、まずは怪我をしないことが大切だと実感しました。そして、業務と並行してトレーニングを怠らず、自分の身体をよく理解し、できるだけ大きなパワーを発揮できる身体づくりをし、今できる最大限のパフォーマンスをイメージし続け、2024-2025年に向けた準備を始めたいと思います。

ALPINE SKIING



シーズン序盤は腰のヘルニアの痛みとも戦っていた



目標のランキングには到達しなかったが、現実的な数字として見えてきた



PROFILE

片桐 麻海 Asami Katagiri

1999年7月13日 北海道生まれ。5歳からアルペンスキーを始める。青山学院大学卒業。中学1～3年生までJ16強化指定選手。高校1年生の2015/16シーズンに全日本スキー連盟強化指定選手。全日本スキー選手権大会大回転3位。

橋本会長がコイントス

4月2日から7日にわたり、男女の国際テニス大会「かしわ国際オープンテニス」が開催された。今年からITFのW50にグレードアップした女子の決勝では、橋本政昭会長がコイントスを行った。



コイントスの他、表彰式のプレゼンターも行った

松田 美咲

Misaki Matsuda



ITF W35
DOUBLES
優勝

ITF W35
オーストラリア・スワンヒル
3月18日～
3月24日
ダブルス優勝

森崎 可南子

Kanako Morisaki



ITF W15
DOUBLES
準優勝

小関 みちか

Michika Ozeki



ITF W15
DOUBLES
優勝

ITF W15
チュニジア・モナステイル
4月8日～
4月14日
ダブルス優勝

ITF W15
亜細亜大学国際女子テニス
3月18日～
3月24日
ダブルス準優勝